

## ★理事長交代特集号★

対談後大学通りを背にツーショット

この度、6月1日より新しくかいゆうの理事長に就任しました池田希咲と申します。

まずは、約10年にわたり、かいゆうを牽引してくださった遠藤良子前理事長に、感謝と敬意を表します。

『国立五日制の会』にはじまり、これまで大切にしてきたこと、かいゆうが理念とする『地域で自分らしく生きる』ための実践を継続し、地域の皆様に信頼される法人となれるよう、職員と共に取り組んでまいりますので、これまでと変わらぬご支援と、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2024年6月吉日

新理事長 池田希咲



お二人の対談は  
次のページから♪

私、遠藤良子は5月31日をもって理事長を辞任致しました。これまでの皆様のご支援ご協力に厚く御礼申し上げます。

かいゆうが社会福祉法人となりいよいよ本番という時に予期せぬコロナ禍、不安と緊張が続く日々でした。それを何とか乗り切った今だから、その貴重な経験をした若い職員たちがかいゆうを担う世代交代のチャンスと思い理事長を交代することに致しました。

新理事長、池田希咲さんは過去くじら工房施設長でした。今度は元気で澁漈とした若い理事長として、かいゆうの世代交代を促進し新たな時代に向かって

進むリーダーとして頑張ってくれると期待しています。

あらためて皆様に感謝し、皆様のご多幸を祈り、辞任のご挨拶と致します。

前理事長 遠藤良子

～この人に聞く番外編～  
**この人たちに聞く**  
**前編**

今回は対談形式のインタビューとして、新旧理事長にお話を聞きに行きました！  
2024.4.25 国立市内某所にて  
(インタビュアー 小野)



★「理事長って何する人？」理事長の仕事とは？・・・理事長はなんでも屋さん？！

遠藤：一般的に社会福祉法人の理事長は肩書だけという人が多い。創設人が理事長やるのか携わるかは別として、会社の社長の様に何かあった場合は責任を取る人っていう肩書の人。

私は、「理事長は用務員」そう思ってやった。昔の学校のイメージ、校長室がはみ出た生徒のたまり場であり、花壇の水やりとか、そんな感じ。現場に立てないから、どこにも属さず、誰もどうしていいかわからないという所をちゃんとすくう事。だからどこにでも行くしなんでもする。何でも屋。現場に居ないから分かること、一歩離れた所から地域の一人として見守る。それが職員の安心感にもつながると信じていた。

年齢的にも現場には出られなかったから、各拠点は法人自体がつぶれても自立できる強さ、チーム力をつけて欲しかった。

池田：私が以前勤めていた『社会福祉法人』の理事長はお寺のお坊さんで、直接対面する機会は、年に1度くらいしかなかったですね。家族経営の社会福祉法人で社会福祉事業をして代々引き継いでいく所もあり、いろんな『理事長』のスタイルを見てきましたが、理事長はある意味「象徴」的な存在で、実際の運営は常務理事、事務局長、施設長が担っているという組織イメージが強かったです。実際自分がその立場になるまでは。

自分の父親が、埼玉で小規模作業所を開設し、制度が整ってくるとともに法人格が必要になり、社会福祉法人を設立して理事長になった。その頃には、東京で暮らしていたので、周りの人からよく、娘が継ぐのでしょ？と言われたが、法人や社会福祉事業は個人が所有するものではない公共のもの、そこに想いを持って募ってきた人たちが守っていくものだという考えがあったので、父の創設した法人を『継ぐ』ということは考えた事もなかった。父も、何でも屋でしたね。父も母も、尊敬する福祉の先輩の一人です。

★かいゆうが社会福祉法人になった時、「賛成」「反対」ありました。が、かいゆうは社会福祉法人になった。そこには制度の改革が大きかった。制度の型に乗っていれば保障が確定される。「想い」を存続させるため選択だった。

遠藤：かいゆうの理事長を引き受けた当初、かいゆうは社会福祉法人の中身が何もなく名前だけくっつけたような状態だった。社会福祉事業としてやっていく上で、組織としてのガバナンス、コンプライアンス、そういうものを整理する時期だった。「想い」だけでは社会福祉法人を維持できない。どんな仕組みでもよかったけど、とにかく社会的な仕組みにはまらないとこの先難しいのではないかと、ニーズに応え事業を拡大していく上でNPOだと持ちこたえられない。人もお金も必要となってくる。かいゆうは社会福祉法人を選んだ。

池田：私は、当時社福化は反対派でした。がんじがらめになってしまうような気がしたので。最近では、NPO法人や株式会社だけではなく、一般社団法人、合同会社での福祉事業者も増えてきているけれど、社会福祉法人では法律でがちがちに縛られて、今までできたことができなくなってしまうような不安というか違和感があった。

社会福祉法人であるべき理由を探すことは難しくなっているからこそ、『社会福祉法人』であるという事の社会的責任については、改めて一緒に考えていきたいと思っています。

★「法人はどう考えている？」「法人が決めてくれないと。」法人が決めないといけない事とそうではない事。

遠藤：部署で決められない事（主に金銭的な事。）、全体的な判断が必要な事、多々ありますが、職員一人ひとりも法人の一員であることを忘れないでほしい。現場が「出来ない。」と言えれば出来ない。ただ、「出来ない。」「はいそうですか。」



もすぐには出来ない。背景や問題点を探ってどこに支援が必要なのかを見極めていく必要がある。介入が必要な場合は法人が介入する。地域、市役所、他事業所、巻き込んで解決していかなければならないケースもある。

池田：「法人は一体どこにあるのだ？」は、このところいつも議論している気がしますね。でも、なんだかんだ、現場の事は、管理者や責任者、運営会議のメンバーが中心になって、答えを出して進めてくれていると思っています。もし、法人というものができる事としたら、現場が出した答えに迷いがあった時、それを支持する事なのかな。後は、大きな仕組みづくりや決断など、状況に応じて運営会議のメンバーや理事会で決めないといけないという事は当然あるとは思いますが。ただ、最近ずっと研修でも取り扱ってきたように、分からなくても考えて伝え合うみたいなことは、一人ひとりが意識してほしいなと思います。

**☆どんな仕事も同じ、長く勤務していると人生が仕事とどうかかわってくるか、考える時が幾度となく来る。人間関係が濃いからこそ自分とも向き合うタイミングが多くなる。**

遠藤：「親方」と「職人」支援については、ベテラン気質が必要な時と不必要な時がある。業界の特性かもしれないけど、ベテランが親方で言うこと聞いて頑張っていればいい的な風潮があるが、そうじゃない。新鮮な視点にはっとする事は大事。

池田：経験年数があればいい支援ができるかというと、そうじゃない。福祉の仕事には専門性が必要な時もあるから「職人」は必要。私は、一度向き合いきれなくなって、かいゆう（くじら雲）を一回離れよう、卒業しようと思った事がありました。変わらなきゃいけない時に、自分には柔軟性がなくなってしまっていて。今思うと、仕事と子育てと介護の始まりみたいな時期に、一人で抱え込んでバランスが取れなくなっていたんだなあと思う。（恥）知識と技術、経験とネットワークは大事。かいゆうを離れなくても、成長できる、突破できる環境は作りたいです。

**☆「職業」としての福祉。**

遠藤：福祉は危うい。正解がない。お金でもない。でも生活はしないとイケない。生活費を稼ぐために職業の福祉をやっている。給料は高い方がいいけど、自分の給料把握は必要。所属している法人の予算で給料も決まってくるしね。

池田：他所と比べたらきりが無いけれど、福祉は守られているなと感じることも多い。福祉は、人の暮らしの本当に基本的な部分を支える事。この仕事ならではの魅力というか、楽しさはあるし、一方で続けていく中での苦しさ、辛さも当然ある。それは、どの仕事でも一緒だと思うけど。たくさんある仕事の中で、私は仕事という括りだけではなく、人の暮らし、人権に関わる『暮らし』に関わっている。これだけ労働力が減り、福祉人材が不足している中で、『奉仕』だけに頼らない仕組み、福祉経営はしっかり考えなきゃいけないと思っています。

**☆支援と人間関係のテーマは「愛」と「ユーモア」**

遠藤：最後は「笑うしかない。」深刻になっても解決しない。どうにもならない事ってある。それじゃあどうするの？目の前にいて、何が出来るかなあ、出来なよなあ、何してもダメだなあって時にどうするか、いるしかない。去らない。福祉ってそういうものだと思う。何かしようって言っても出来ない。そこにいるだけ。

池田：私はこれがしたい！とか、これは嫌だ！とか意思表示が出来ればよいのだけど、かいゆうにはそうではない人たちがいる。意思表示や意思確認が困難な時に、正解がない時の支援者の不安。でも実は、利用者さんたちの方が、支援者に

付き合ってくれているんだよな～ってハッとする事は多いよね。（笑）何が出来るかな？どうしたいんだろうって、一緒に悩んだり、共に過ごす時間を、時には穏やかではない時間も「愛」と「ユーモア」を大切にしたいな。

お二人から貴重なお話を聞くことが  
でき、大盛り上がりだった対談♪  
ページが足りない事態となってしまう  
いました…汗  
続きは次号にて…！！



初めて工房を会場にして行う展覧会です。どんなイベントになるか、私たちもドキドキです。今回、なぜ工房での展覧会を企画することになったかというと、理由は二つあります。一つ目は、くじら工房の作品を皆さんに見てもらいたいから。二つ目は、工房の活動を皆さんに知ってほしいからです。15日の13時には、普段私たちが月に一度楽しませていただいている、ボランティアさんによるハープの演奏と絵本の朗読がございます。普段の活動場所で、作品や活動の様子をご覧いただきながら、地域の皆さんと交流できたら嬉しいです。

ここで、展示されるもののひとつ、絵画制作でお世話になっている敦子講師とのエピソードを。敦子さんは月に5回、「アトリエ」という活動の時間に講師として来てもらっています。最初のころのアトリエは、レクリエーション的な要素が強かったです。それが次第に絵画に対するメンバーの皆さんの取り組み方が本格化してきました。そこで数年前から、本格的な場所で展示をし、しっかりとした値段で販売するようになりました。私たちスタッフも、作品の扱い方、作家への敬意とは…というところを何度も敦子さんにご指導いただきました。

今回は、最近の本格的な展示会場とは違う、くじら工房での開催です。私は、工房でも本格的な展示会場のときみたいにかっこいいイベントにしようと張り切って企画していたのですが、普段の活動場所で開催するということは、かっこつけないことに意味があるのだと、敦子さんからアドバイスを受けました。

私は準備をしながら、作品への敬意とありのままを見せることの両立とは…というところをグールグルしたり、ピーンとひらめいたりを繰り返しながら、企画しているところです。

ちなみに、ピーンと来た瞬間は、結局メンバーの作品を見た時でした。

「そうか。この作品がここで生まれた。それを見せれるんだ！」…ピーーーン！

絵画だけではなく。刺繍の布巾、バッグ、ブレスレッド…展示・販売する作品から物語を感じてもらえたら嬉しいです。(家村)





くじら工房は谷保駅前にあるしょうがいしゃの方の日中活動の場です。地域の皆様と交流したいという思いから、このたび展覧会を開催いたします。

活動紹介と作品展示、ハープ演奏などのイベントを企画し、皆様のご来場をお待ちしております。






絵画作品・刺繍のふきん他

ハープ演奏と絵本の朗読

## くじら工房の展覧会

6月14日(金)14:00~15:30

6月15日(土)10:00~16:00

★14日は活動日のため会場を制限した中での開催になります。

会場：くじら工房（国立市富士見台1-17-17-1）

お問い合わせ：042-843-3450（くじら工房）



@KUJIRAKOUBOU

見てね！

☆かいゆうホームページ☆





## くじらハウス

### 衰えを感じました…



私の数少ない趣味の一つにスノーボードがあります。今回は初めて友達と一緒に群馬県にある尾瀬岩鞍スキー場という所に行きました。山頂からの雪景色・昼食で食べた味噌ラーメン・珍しく場内にあった喫煙所・少しは上達した？（笑）滑り。楽しかった事は間違い無かったのですが、なにより感じたのは「身体の衰え」でした。。ふくらはぎ・足先・肩回り等あらゆる所が痛み始め体力が気持ちに追い付いていない事を痛感しました。

昔、先輩に「30歳を迎えるとぐっと体力が落ちるよ」と言われた事を思い出し、精神的にはまだまだ子供なの

に身体はしっかりと衰えていくんだとなんだか情けない気持ちになりました（笑）

あと数ヶ月で30歳。以前思い描いていた30歳よりも大分かけ離れてはいますが、これからも支援者として、人としても成長出来るよう日々頑張っていきたいと思っています。（一之木）



## 来歩ハウス

### 『林中の譚(たん)』から

偶然、『サルと人と森』、という絵本と出会った。ひとりの人間が林へ入っていき、一匹の年老いた猿と対峙するうちに、人間の、サル、そして自然に対する高慢な思想が明らかになる、というストーリーである。

この絵本は、歌人として有名な石川啄木が、117年前の盛岡中学校の校友会雑誌に発表した『林中の譚』を原作としている。1886年生まれ啄木が、人間の社会が続いていくために、森や自然に謙虚でなくてはならない、と寓話を通じて提言していることにまず驚くのだが、私はこの『林中の譚』の、この一節にドキッとした。

「丸山さんは知識はありますよ。」大学生2年生の冬に、当時の指導教官との面談で言われた言葉だ。教授はさらに続ける。「社会福祉学者の一番ヶ瀬康子は、ソーシャルワーカーにとって大切なことは優しさであるといったそう。著名な研究者がこんなにあっさりとした言葉でまとめていることは不満だった。それでも最近考えることは、知識をたくさん身につけていくと、一度ソーシャルワーカーらしさから離れるときがある。何も学ぶ前のほうがよっぽどソーシャルワーカーらしい性格だったのに。」

そんなことを言われてしまったら、何のために大学に通って、必死で勉強しているのかわからないじゃないか、と憤慨するほかなかったが、今の私は、学んだこと感じたこと双方が自らの血肉になっているといいな、と思う。（丸山）

「知識その物には何の価値あることなし。唯、人間の採<sup>ただ</sup>って以<sup>も</sup>って  
なんらかの資料となすに至<sup>と</sup>って初めて相応の価値を生じ来る。」



かいゆうだよりはチームごとに記事を出すことになりました！

どの部署の記事が載るかは毎回お楽しみ♪



## すうえる

### 音を聴くだけで…

かいゆうに入るまでの10数年、DJをしていました。DJと言っても、ラジオのディスクジョッキーからレコードを使って曲をその場で作っていくヒップホップのDJ、パーティーでどこかどこか爆音で決めてみせるDJなど、たくさんあります。

僕の場合には、ミュージシャンがライブをする前や幕間、ライブ後に曲をかけながら、その場所の空気を居心地の良いもの…お酒を飲んで貰い、食べ物を食べて貰いながら、会話の邪魔をしないような、それでいてお酒が進むような、BGM係としてのDJが主でした。

音楽自体は、オールジャンル…なんでもかけていました。主にブルースやジャズが多かったとはいえ、来る仕事はなるべく断らず、例えオファーがあれば、河川敷や結婚式の二次会、1,000人以上が集まるフェスなどにも出ていましたし、そうすると、その場その場にかかる音楽は変わってきます。有名無名問わず、たくさんのミュージシャンとご一緒させていただきましたし、東北を中心にツアーなどにも行きました。

音楽自体もそうですが、音楽って記憶を蘇らせる効果もあります。

例えばかいゆうのある国立に拠点を構えていたバンドの、いまはもう亡くなってしまったギタリストの先輩が、僕がDJをしている横で、煙草を吸っている姿。

例えばONE OK ROCKの「whatever you are」がたまたま町で流れていたら、ある晩僕がDJでかけたその曲に、「これ…」と言って絶句し、泣き出した友達の姿を思い出します。

例えばサルサを聴けば、昼間に呼ばれたカフェで、僕がかかるサルサやアフリカのファンクに、2歳くらいの男の子がいきなり立ち上がり、踊り出した光景はいまでも目に浮かびます。

音楽には、「時代や国境を越えて、鳴り響く」という考え方があります。2024年の春、1920年代に吹き込まれたレコードを聴くと、そこに託されたはずのたくさんの思いに少しだけ触れた気がして、感動してしまうのです。音楽は旅をする。レコードは旅をする。時代を越えて、国境を越えて。例えば、20代で亡くなった友達のCD…友達は亡くなってしまったけれど、彼の残した演奏が、何年か先の世界のどこかで、不意に鳴り響く事を、僕はいまでも夢見ています。

遠く外国へ旅立ったままの、友人が気まぐれに旅先から送ってくれる絵葉書のように、音楽は僕に記憶を伴ってやってきたりするのです。突然に！（もちろんそれは音楽の聴き方のたくさんあるうちのひとつです）。(五明田)

## はじめの一步ハウス

### 私の趣味

こんにちは、4月からはじめの一步ハウス所属になりました遠藤紗羅です。昨年の研修では、色々な部署で大変お世話になりました。今後ともよろしくお願いいたします！

何を書こうかずっと迷っていましたが、まずは自分の事を知っていただきたいと思い…趣味を紹介させていただきます！



江の島水族館にて😊



広く浅く手を出していて、ブームがコロコロ変わりますが…まず絵を描くことが好きです！最近では水彩やiPadで描いています。ほか縫い物や編み物などハンドメイド、ギター、短歌、俳句、ゲーム、ライブ、海で貝殻を拾う、かもを見る、散歩など色々…もし趣味が合う方がいらっしゃいましたら、声をかけていただくと嬉しいです！特にポケモンGOのフレンド募集しています！（遠藤）

## 2023 年度ボランティアの皆様

入山さん 児玉谷広子さん 佐藤さん

高原昇さん 矢内愛子さん

結城翠唱さん C・Nさん

いつもかいゆうを支えてくださっている皆様

ありがとう  
ございました

ポニー水上自伝

7

もめんのように

予防注射をうける時  
看護婦さんの  
白衣をにぎって  
いたみを看護婦さんに  
うつした。



予防注射を受ける時  
看護婦さんの  
白衣をにぎって  
いたみを看護婦さんに  
うつした。

授業の時

私だけが先に終わって

先生を呼んでも

私の所に来ないので

先生のスカートの中を  
のぞいて にらまれた。



授業の時  
私だけが先に終わって  
先生を呼んでも  
私の所に来ないので  
先生のスカートの中を  
のぞいて にらまれた。

### 『もめんのように』作品紹介

1990年頃から30年にわたって、ポニー水上が自らの半生を絵と文で表現した作品集。昨年製本され、上巻・下巻の二冊からなる。昭和の時代に遅く生きる姿に、心を打たれる読み応えたっぷりの作品。



～たまりば宙に寄せられた募金を、能登半島地震に係る災害義援金として石川県に寄付をしました～

送金日：5/20(月) 金額：10,000 円

送金先：石川県（令和6年能登半島地震に係る災害義援金として）



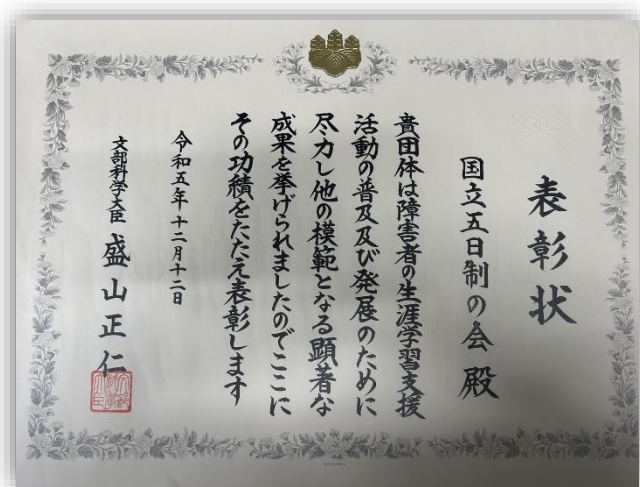
# 五日制の会が表彰されました！

先日、国立五日制の会が「障害者の生涯学習支援活動」に対して文部科学省から表彰されました！

表彰式はくにたち市民総合体育館の一室をお借りし、リモートでの参加となりました。

五日制の会も含め、全国51団体の活動内容も紹介され、障害者専門のスポーツ教室やアトリエ、中には乗馬教室等もあったりしてそんな活動もあるのかと驚き、全国の活動を知る良い機会となりました。

これからも五日制の会の活動が続き、障害のある方の生活がより良いものになるように、その手助けが少しでも出来ればと思っています。（一之木）



## 【マヨ(マヨネーズ)チャーハン】

マヨネーズと聞くと、カロリーが気になる方もいるかと思いますが、油をマヨネーズに置き換えるというレシピなのでご安心を!!

具材はなんでもオッケー  
※写真は塩鮭とレタスと卵です。

①まず、温めたフライパンに油の代わりにマヨネーズを敷きます。

※一人前大さじ一杯強

②ごはん（温かい方がよい。）、具材、卵等炒めます。

シンプルな具材の場合は顆粒だし（コンソメ、ガラスープでもオッケー。）

塩コショウで味を調えて出来上がり。

ごはんや具材にまんべんなくマヨネーズの油が絡まってパラパラのチャーハンになります。試してみてください。

## 栄養士さんのひとこと

マヨネーズには、高い抗酸化作用のある「ビタミン E」丈夫な骨を作る「ビタミン K」など大切な栄養素が含まれています。また、調理に使うことにより味に深みを増し、全体をしっとりさせ、塩分を減らす効果もあります。

★今日の一品★

